

かわもと あっし
川本 淳

年賀状はいつも寅年

●自治労・書記長

新春を迎え、2014年が皆様に、そしてはたらくものにとって、ぬくもりや、やさしさが感じられる年になることを強く願うとともに、そのことを実現させるためにしっかりと様々な事柄に取り組んでいきたいと思ひます。

さて、労調協の新米理事ですので、私の特徴が伝わるような戯言とします。しばしの間、お付き合いください。

新しい年を迎えるにあたり、師走、年末は慌ただしいものであるが、私が結構真剣に考えることのひとつに年賀状がある。

近年は、様々な通信手段が発達し、年賀状のやりとりが世間では大幅に減少してきているといわれているが、アナログな私にとっては、まだまだ大きなイベントとして位置づけられている。

年賀状づくりは、印刷会社に依頼する時代からパソコンで自ら印刷するなど手法は変わっても変わらないことがある。

キーワードは「阪神タイガース」である。

「お前の年賀状は、毎年寅年だな」といわれようと、「ダメ虎」といわれた暗黒時代から、ひたすらこだわってきた。年賀状の中で、必ず今年は優勝しますという決意表明？ともいえる公約を掲げる。残念ながらこのスタイルにしてから2度（2003年、2005年）しか当たっていないのは少しだけ悲しいが……

それに加えて、新しい年に活躍するであろう選手の名を書き込む。古くは、期待値込み

で選手の残すであろう成績や、取るであろうタイトルまで書き込んできたがこちらでもまるで当たらない。それはそうである。投手の勝ち星を足していくと100勝以上になってしまうのだ。もちろん、ホームラン数も軽く200本を超えてしまう。まさしく取らぬ狸の皮算用である。

あまりにも、目標とかけ離れ「妄想」といわれることもあって、近年は、少し趣向を変えてブレイクするであろう選手の名を書き込んできた。

こちらは、意外と的中している。ちなみに昨年2013年の予想は藤浪晋太郎投手。

高卒新人でセントラルリーグでは1967年江夏投手（当時阪神タイガース）以来の二桁勝利をあげて大ブレイク。

彼の貴重な初登板をこの目に収めようと、寒風吹きすさぶ神宮球場まで出向いて行ったことは言うまでもない。

この二桁勝利は、プロ野球全体でも、江夏投手以降は1999年松坂投手（元西武ライオンズ）、2007年田中投手（楽天ゴールデンイーグルス）しかいないが、この二人は早々にアメリカに渡っている（この雑文を書いている時点で田中投手は未定だが）ことから、近い将来、藤浪投手も遠い海の向こうに行ってしまうのではという不安は強いが、まだ、先の話である。

そんな、失礼なような年賀状も田舎役場の先輩や労働組合の先輩にも定着してきたようで、「今年も優勝は無理でしょう」とか「優勝できることをお祈り申し上げます」と



か「いいかげん地元北海道日本ハムファイターズを応援しなさい」などの一筆が添えられてくる。

同じ志向を持つ仲間には、応援するときのファッションを家族全員で身にまとった写真入りや、生まれたばかりの子どもに虎ファッションをさせた写真入りなど、さながら虎ファンの自慢大会の年賀状もある。

もちろん、オレンジ色のウサギの写真入りも中にはあるが……

そんな年賀状を読むのが新年の恒例行事である。

私の虎好きは周囲にかなり浸透しているようで、初めてお会いする関西方面の役員の方から、阪神タイガースマークが入った裏地のスーツやコートを作らないか？とか甲子園球場のシーズンシートのお誘いが来たりした。

虎グッズもよくお土産としていただく。最近いただいたものではビーチサンダル、小さな樽入りの日本酒、立派な木箱入りのそうめん、2003年優勝時の帽子にマウスパッド、ネクタイピンとカフスのセットなどなど。

大変ありがたいことだ。

仕事の名刺を渡しご挨拶するより、印象を残すという意味では、「阪神タイガースファン」を公言し、熱弁をふるうことは効果的であるように思うと同時にいきなり初対面でそんな会話はできるわけもなく控えている。

もちろん他チームをひいきしている方々や、まるでプロ野球に興味のない方には、はたはた迷惑なお話であろう。

子供たちは社会に出ているが、長男は私の

教えを守り虎ファンである。

しかし、長女は幼稚園の運動会からタイガースTシャツを着せたりしたのが裏目に出たのか、アンチプロ野球になってしまった。強要・強制はいけないということであろう。

よくよく、反省しつつも今のターゲットは孫である。1歳の誕生日には、虎の着ぐるみを着せた。2歳で虎のパジャマ。3歳ではグローブ。嫌われないようにしっかりと教育していく。

北海道なのになぜ虎ファンかとよく聞かれるが、小学生の頃9年連続優勝を成し遂げた常勝軍団に、必死で向かっていたタイガースに心を熱くして以来のファンである。強いものに向かっていく姿に強い共感を得たというのが正しい表現か。そんな気持ちを持ったまま、労働組合役員から、休職専従、そして役場を退職し流れ流れて、気付いたら東京にまで来てしまった。

今の政府・自民党はその巨大な勢力を背景にやりたい放題。子どもの頃、共感した必死に立ち向かっていく精神を忘れずに今年も労働運動にまい進したい。

ちなみに、私の年賀状、2014年ブレイクする選手は「松田遼馬」投手。長崎・波佐見高からドラフト5位で入団、今年三年目を迎える。魅力は速球と度胸。

今年の干支「馬」も名前に入っている。間違いないであろう。